

# 大分市文化・芸術に関するアンケート調査報告書 概要版

大分市では、文化・芸術に対する関心度やニーズ等を把握し、今後の文化・芸術施策等を検討するための基礎資料とすることを目的として、「市民アンケート」、「団体アンケート」、「学生アンケート」を実施しました。

## 市民アンケート

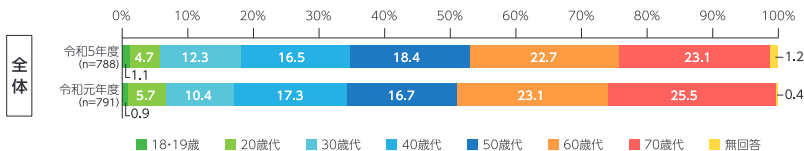
### 1 調査の概要及び回答者の属性

#### ■ 調査の概要

対象者と抽出方法	住民基本台帳に記載された、大分市に居住する18歳以上の市民3,000人を無作為に選ばせていただきました。		
調査方法	郵送調査法		
調査時期	令和5年11月20日～令和5年12月15日		
配布・回収状況	配布数 3,000 回収率 26.4%	回収数 788 ※回収率=回収数÷(配布数-不明戻数)	不明戻数 16

#### ■ 回答者の属性

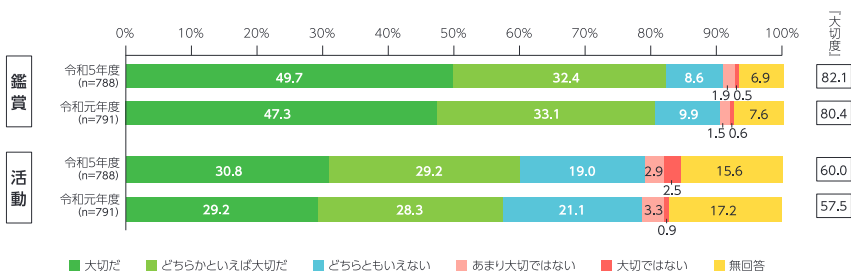
##### 《年齢》



### 2 文化・芸術の鑑賞、活動について

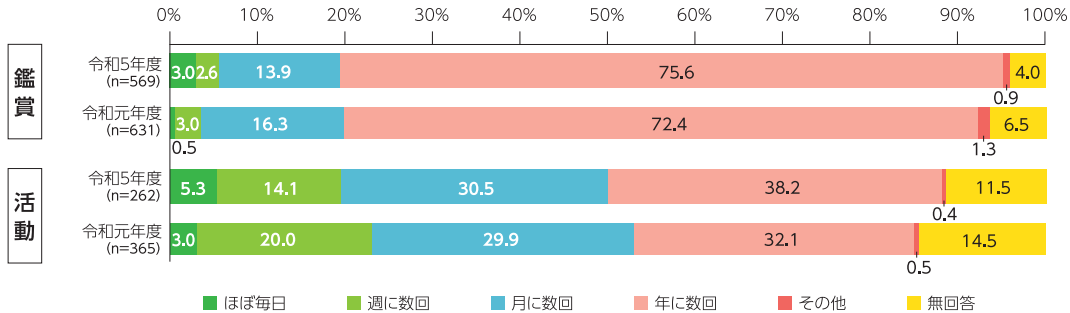
#### ■ 鑑賞、活動の大切さ

『大切度』（「大切だ」+「どちらかといえば大切だ」）は、鑑賞では82.1%ですが、活動では60.0%と、鑑賞に比べると22.1ポイント少なくなっています。



## ■ 鑑賞、活動の頻度

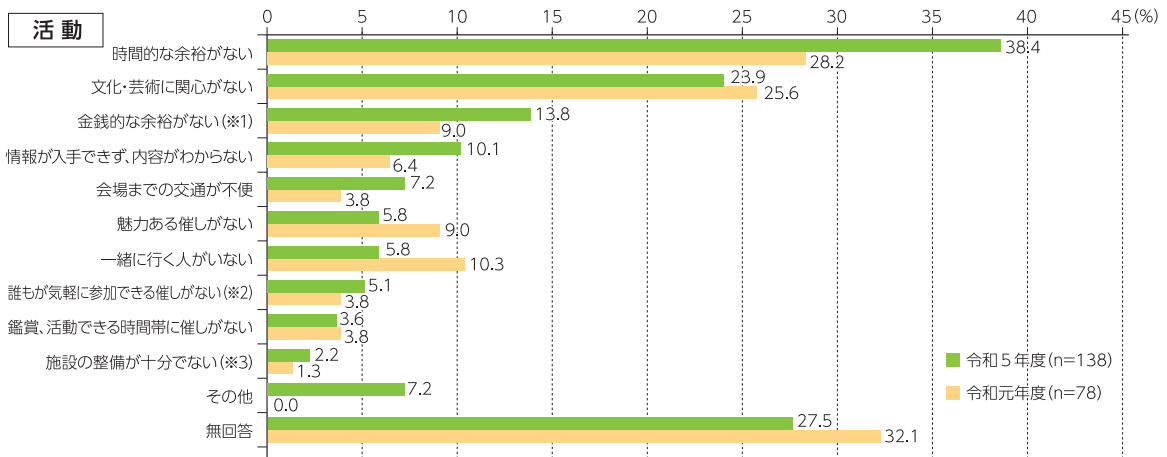
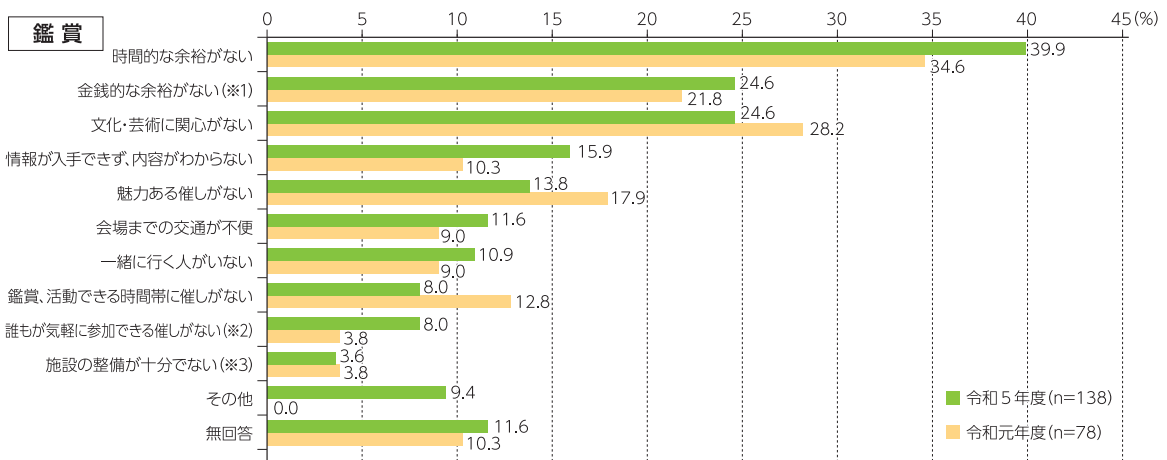
鑑賞の頻度としては、「年に数回」(75.6%)が圧倒的に多くなっていますが、活動では、週に1回以上が約5人に1人(「ほぼ毎日」5.3%+「週に数回」14.1%)となっており、これに、「月に数回」(30.5%)を加えた月1回以上活動している割合は49.9%と半数となっています。



## ■ 鑑賞も活動もしていない理由

鑑賞も活動もしていない理由としては、観賞、活動ともに「時間的な余裕がない」が最も多くなっています。

令和元年度と比べると、「時間的な余裕がない」が鑑賞で5.3ポイント、活動で10.2ポイント増加しています。



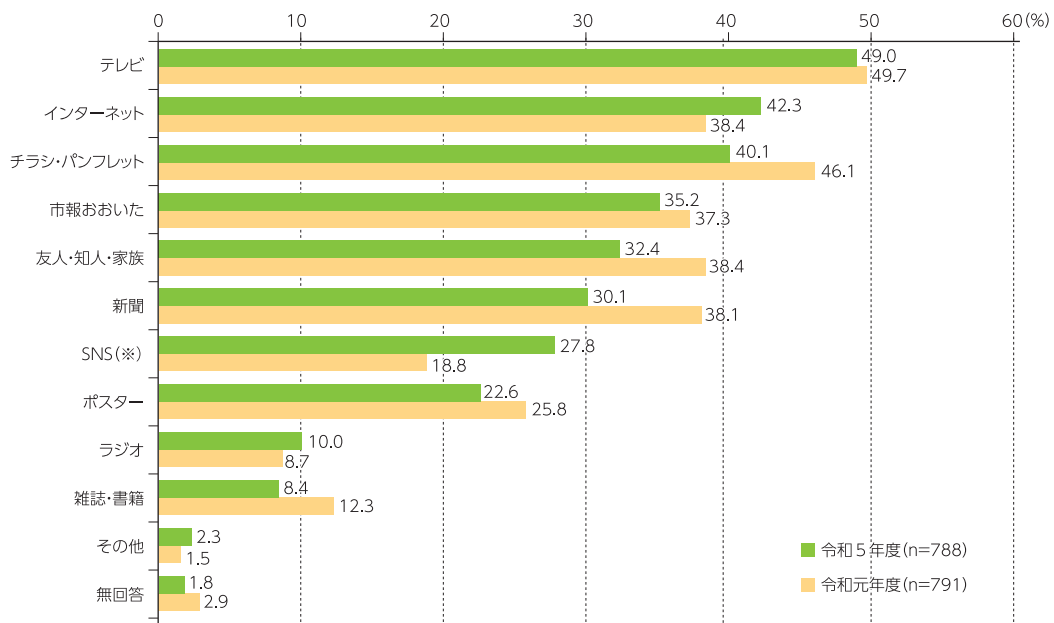
(※1) 令和元年度は、「料金が高い」 (※2) 誰もが気軽に参加できる催しがない (子どもが泣いたり騒いだりしても、安心して参加できるコンサートなど)  
 (※3) 施設の整備が十分でない (子ども連れ、高齢者、障がい者等が利用しにくい)

### 3 文化・芸術に関する情報について

文化・芸術に関する情報の入手先としては、「テレビ」が49.0%と最も多く、次いで「インターネット」(42.3%)、「チラシ・パンフレット」(40.1%)、「市報おおいた」(35.2%)、「友人・知人・家族」(32.4%)、「新聞」(30.1%)となっています。

令和元年度と比べると、「チラシ・パンフレット」、「友人・知人・家族」、「新聞」が減少し、「インターネット」、「SNS〈フェイスブック、X(旧ツイッター)、LINE(ライン)、インスタグラムなど〉」などの増加が目立ちます。

年齢別にみると、30歳代以下では、「SNS」が6割台で最も多くなっています。また、50歳代以下では「インターネット」が5～6割台と多く、全体で最も多い「テレビ」を上回っています。50歳代以上では「テレビ」や「新聞」、「市報おおいた」が多くなっています。



	サンプル数	チラシ・パンフレット	ポスター	インターネット	SNS(※)	市報おおいた	新聞	テレビ	ラジオ	雑誌・書籍	友人・知人・家族	その他	無回答	
全体	788	40.1	22.6	42.3	27.8	35.2	30.1	49.0	10.0	8.4	32.4	2.3	1.8	
年齢別	20歳代以下	46	32.6	<b>37.0</b>	<b>63.0</b>	4.3	2.2	41.3	6.5	6.5	30.4	0.0	2.2	
	30歳代	97	44.3	23.7	<b>53.6</b>	<b>67.0</b>	27.8	7.2	44.3	5.2	7.2	26.8	1.0	1.0
	40歳代	130	<b>47.7</b>	26.2	<b>56.9</b>	<b>34.6</b>	36.2	16.2	41.5	6.2	5.4	34.6	3.1	0.8
	50歳代	145	40.7	26.9	<b>55.9</b>	26.9	37.2	33.1	<b>54.5</b>	14.5	6.2	33.1	2.1	1.4
	60歳代	179	38.5	17.9	41.9	20.7	34.1	33.0	<b>55.3</b>	12.3	12.8	34.1	2.2	0.0
	70歳以上	182	35.7	15.9	12.1	1.6	<b>45.6</b>	<b>53.3</b>	48.4	10.4	9.3	32.4	3.3	4.4

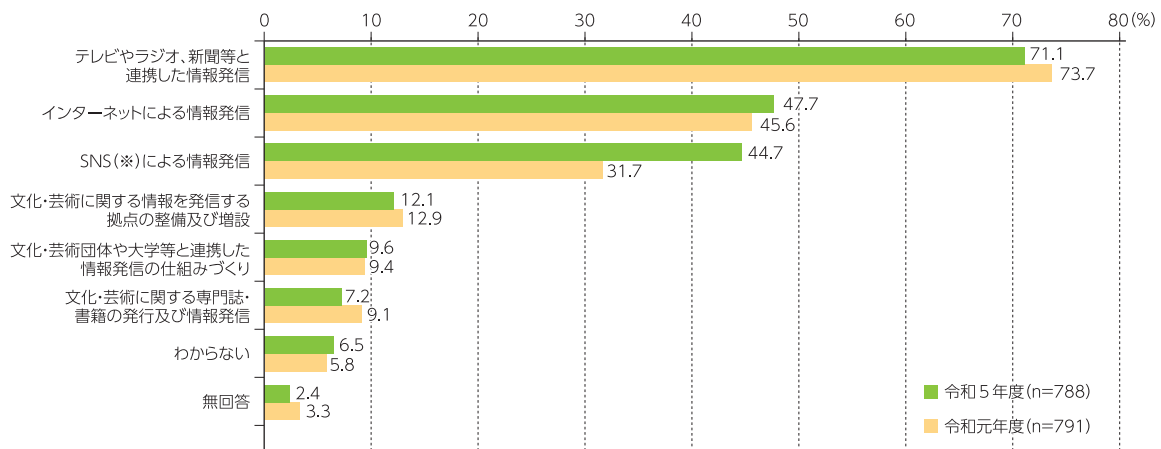
※SNS(フェイスブック、X(旧ツイッター)、LINE(ライン)、インスタグラムなど) (注) **太字** 全体より5ポイント以上大きいもの(「無回答」は除く)

#### 4 情報を発信するために必要な取組

より多くの人へ文化・芸術に関する情報を発信するために必要な取組としては、「テレビやラジオ、新聞等と連携した情報発信」が71.1%と最も多く、次いで「インターネットによる情報発信」(47.7%)、「SNSによる情報発信」(44.7%)となっています。

令和元年度と比べると、「SNS」の増加が目立ちます。

年齢別にみると、「インターネットによる情報発信」や「SNSによる情報発信」は、年齢が低い層で多くなっています。特に、30歳代以下では「SNSによる情報発信」が8割台に達し、一方で、60歳代以上では「テレビやラジオ、新聞等と連携した情報発信」が他の年齢層に比べ多くなっています。

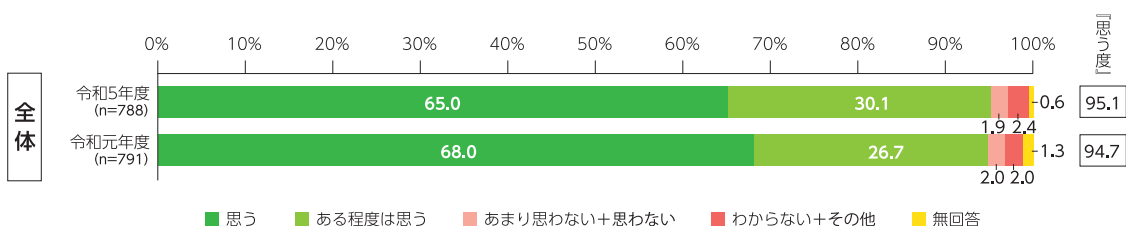


	サンプル数	インターネットによる情報発信	SNS(※)による情報発信	テレビやラジオ、新聞等と連携した情報発信	文化・芸術に関する専門誌・書籍の発行及び情報発信	文化・芸術に関する情報を発信する拠点の整備及び増設	文化・芸術団体や大学等と連携した情報発信の仕組みづくり	わからない	無回答
全体	788	47.7	44.7	71.1	7.2	12.1	9.6	6.5	2.4
年齢別	20歳代以下	46	<b>67.4</b>	<b>89.1</b>	50.0	8.7	<b>26.1</b>	0.0	0.0
	30歳代	97	<b>63.9</b>	<b>82.5</b>	54.6	7.2	10.3	3.1	1.0
	40歳代	130	<b>55.4</b>	<b>59.2</b>	66.9	5.4	6.9	6.9	4.6
	50歳代	145	<b>55.9</b>	48.3	73.8	7.6	14.5	13.1	5.5
	60歳代	179	52.0	38.5	<b>80.4</b>	8.4	15.6	7.3	4.5
	70歳以上	182	19.8	8.2	<b>78.6</b>	7.1	11.5	7.7	<b>12.1</b>

※SNS(フェイスブック、X(旧ツイッター)、LINE(ライン)、インスタグラムなど) (注) **太字** 全体より5ポイント以上大きいもの(「無回答」は除く)

#### 5 子どものころから文化・芸術に触れる機会の必要性

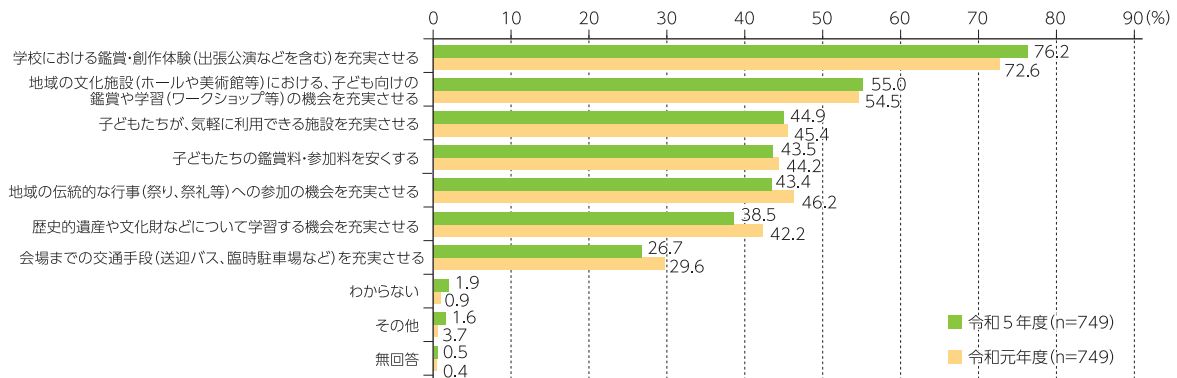
子どものころから文化・芸術に触れる機会の必要性については、「思う」が65.0%と多く、これに「ある程度思う」(30.1%)を加えた『思う度』は95.1%となっています。



## 6 子どもたちが文化・芸術に触れる機会の必要性

子どもたちが文化・芸術に親しむ機会を充実させるため必要なこととしては、「学校における鑑賞・創作体験（出張公演などを含む）を充実させる」が76.2%と最も多く、次いで「地域の文化施設（ホールや美術館等）における、子ども向けの鑑賞や学習（ワークショップ等）の機会を充実させる」（55.0%）となっています。

年齢別にみると、30～50歳代では「学校における鑑賞・創作体験（出張公演などを含む）を充実させる」が8割台、40歳代以下では「子どもたちの鑑賞料・参加料を安くする」、「子どもたちが、気軽に利用できる施設を充実させる」、70歳以上では「地域の伝統的な行事（祭り、祭礼等）への参加の機会を充実させる」が5割台と多くなっています。

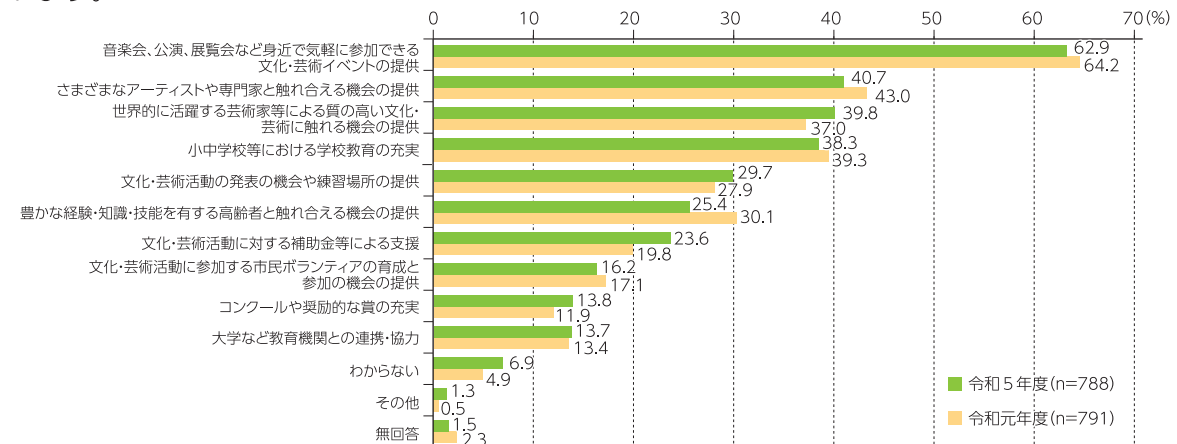


	サンプル数	学校における鑑賞・創作体験(出張公演などを含む)を充実させる	地域の文化施設(ホールや美術館等)における、子ども向けの鑑賞や学習(ワークショップ等)の機会を充実させる	子どもたちの鑑賞料・参加料を安くする	地域の伝統的な行事(祭り、祭礼等)への参加の機会を充実させる	子どもたちが、気軽に利用できる施設を充実させる	歴史的遺産や文化財などについて学習する機会を充実させる	会場までの交通手段(送迎バス、臨時駐車場など)を充実させる	わからない	その他	無回答
全体	749	76.2	55.0	43.5	43.4	44.9	38.5	26.7	1.9	1.6	0.5
年齢別	20歳代以下	43	74.4	37.2	37.2	53.5	23.3	20.9	2.3	0.0	0.0
	30歳代	93	81.7	53.8	50.5	38.7	52.7	29.0	25.8	3.2	3.2
	40歳代	125	80.0	56.8	51.2	40.0	54.4	44.0	36.8	0.0	3.2
	50歳代	143	83.2	55.9	49.7	32.9	37.1	30.8	26.6	0.7	2.1
	60歳代	168	78.6	60.7	41.1	46.4	41.7	46.4	23.2	2.4	0.0
	70歳以上	170	64.7	53.5	30.6	55.9	41.8	43.5	24.7	2.4	1.2

(注) 太字 全体より5ポイント以上大きいもの(「無回答」は除く)

## 7 次世代の文化・芸術の担い手の育成や支援に必要なこと

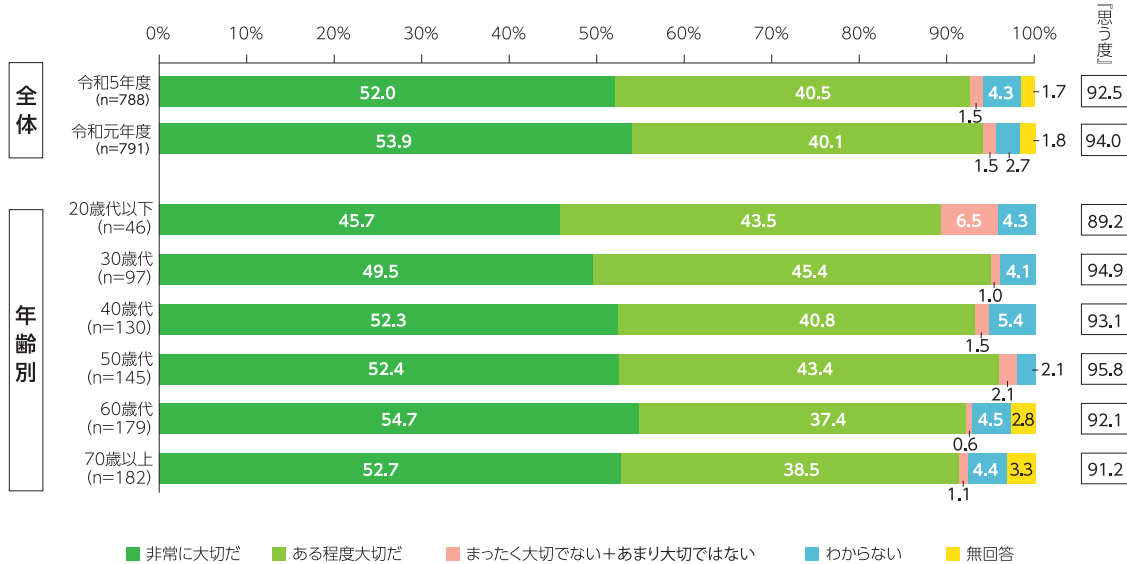
子どもに限らない、次世代の文化・芸術の担い手の育成や支援としては、「音楽会、公演、展覧会など身近で気軽に参加できる文化・芸術イベントの提供」が62.9%と最も多くなっています。



## 8 文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）について

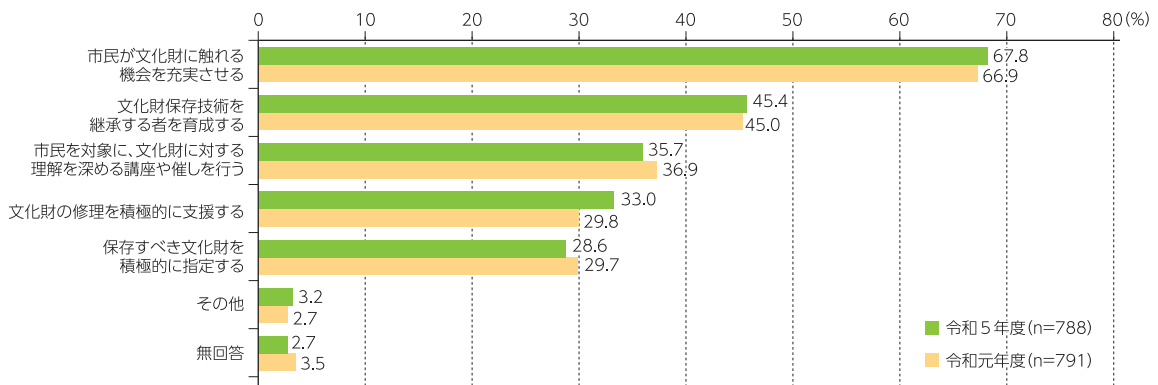
### ■ 保存・活用していく取組みへの大切さ

文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）を保存して、活用していく取組については、「非常に大切だ」が52.0%、「ある程度大切だ」が40.5%、合計した『大切度』は92.5%となっています。



### ■ 保護・活用するために必要な取組

文化財や歴史的な価値のあるもの（歴史的遺産）を保護・活用するために必要な取組としては、「市民が文化財に触れる機会を充実させる」が67.8%と最も多く、次いで「文化財保存技術を継承する者を育成する」（45.4%）、「市民を対象に、文化財に対する理解を深める講座や催しを行う」（35.7%）、「文化財の修理を積極的に支援する」（33.0%）となっています。



## 9 大分市の文化・芸術施策について

### ■ 文化・芸術施策に関する重要度・満足度

集計結果にスコアウエイトを与え、その平均スコアを算出し、9つの取組を4つのグループに分類しました。なお、この分類は、相対的なものであり、平均点に近くなるほど隣接する領域の要素も含まれてくるため施策の方向性を明確に位置付けるものではありません。

#### ① 早期改善項目

満足度は低い、重要度が高いもので、早期の改善が望まれるものと言えます。

#### ② 随時改善項目

満足度と重要度が共に高いもので、必要に応じて改善を図りながら、維持が望まれるものと言えます。

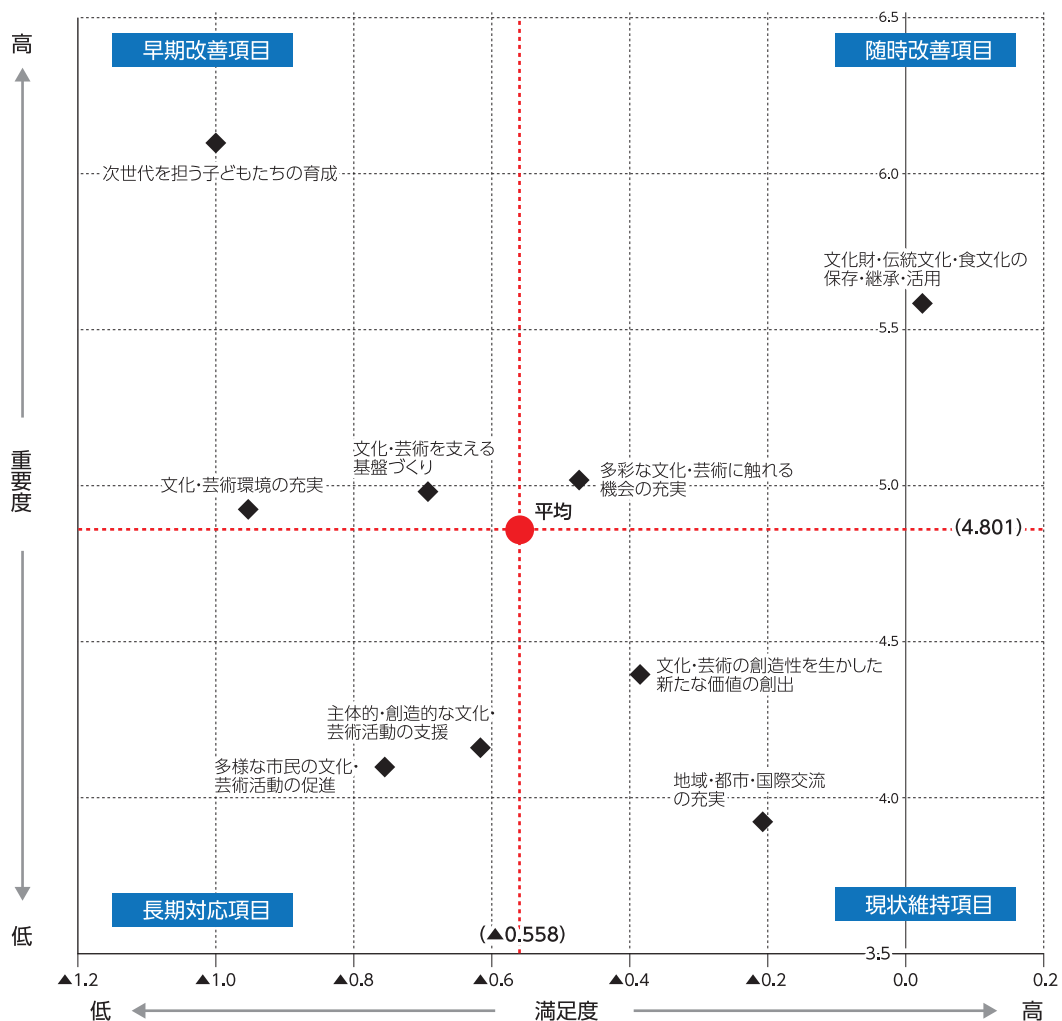
#### ③ 現状維持項目

満足度が高く、重要度が低いもので、推移をみながら維持が望まれるものと言えます。

#### ④ 長期対応項目

満足度と重要度が共に低いもので、推移をみながら改善が望まれるものと言えます。

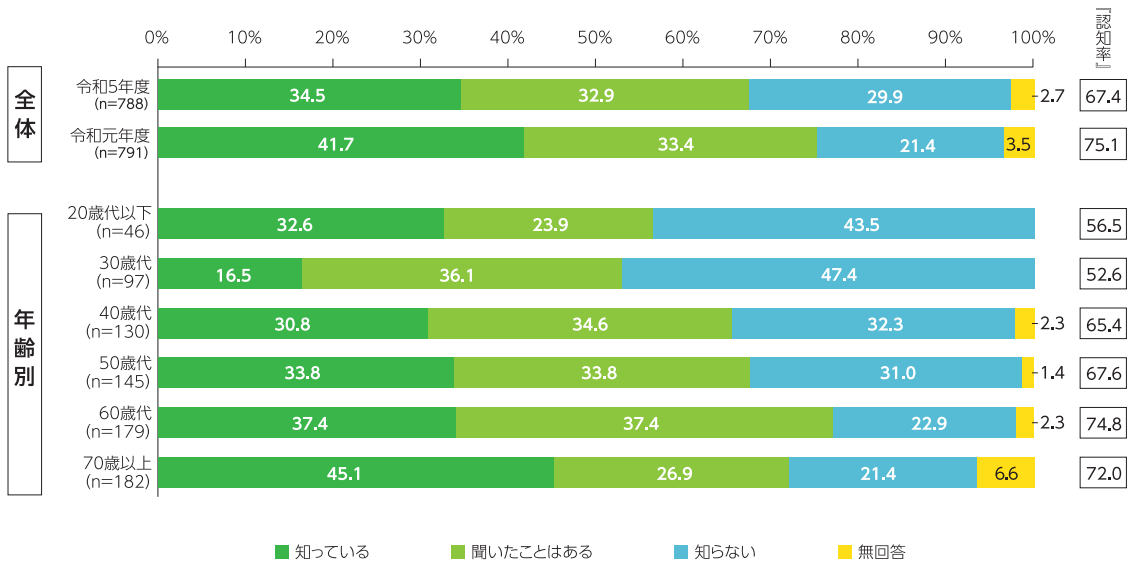
■ 満足度・重要度の平均スコアによる散布図 ■



## ■ 大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることの認知度

大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることについては、「知っている」が34.5%、「聞いたことはある」が32.9%、合計した『認知率』は67.4%となっています。

年齢別にみると、『認知率』は、30歳代以下で5割台と少なく、40歳代以降は年齢が高くなるほど多くなる傾向にあり、60歳以上では7割を超えています。

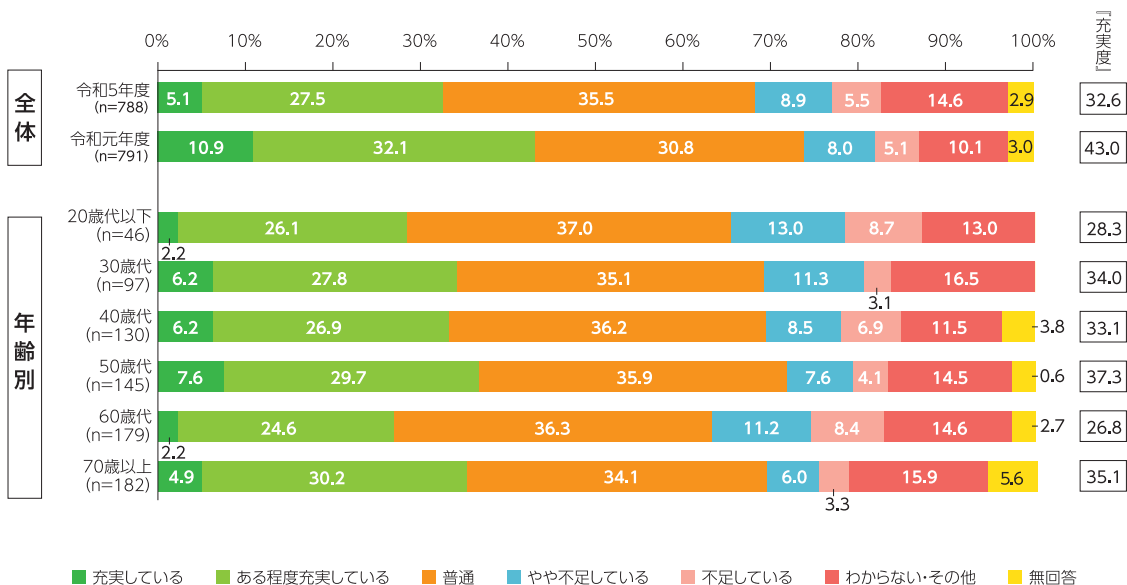


## ■ 文化施設の充実状況

大分市内の文化施設（公設、民間問わず）は充実していると思うかどうかをみると、「充実している」が5.1%、「ある程度充実している」が27.5%、合計した『充実度』は32.6%となっています。一方、『不足度』は14.4%（「やや不足している」8.9%+「不足している」5.5%）となっています。

令和元年度と比べると、『充実度』が43.0%から32.6%に減少しています。

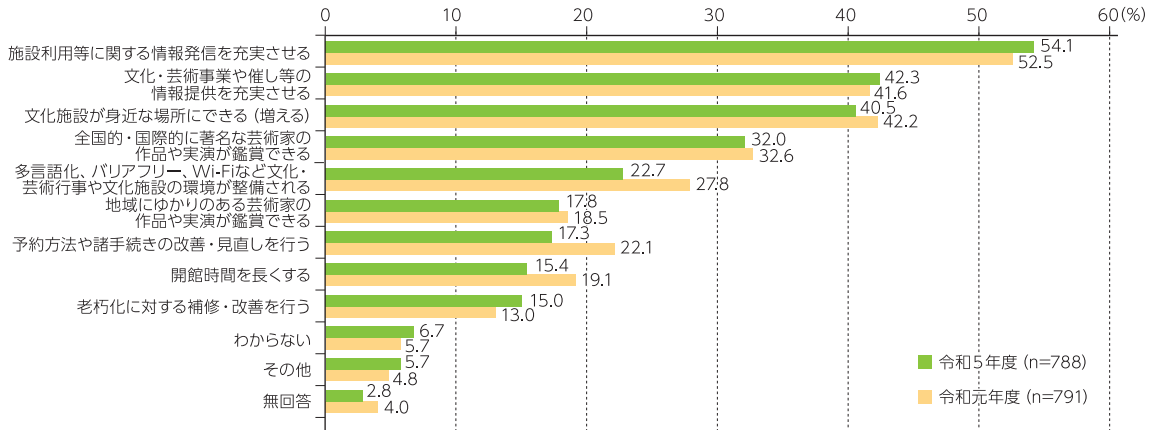
年齢別にみると、20歳代以下、60歳代で『充実度』が2割台と少なくなっています。





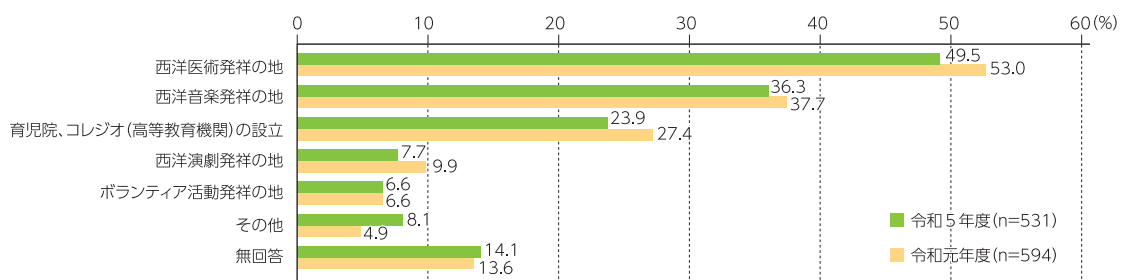
## 文化施設の利用促進の方法

文化施設の利用を促進する方法としては、「施設利用等に関する情報発信を充実させる」が54.1%と最も多く、次いで「文化・芸術事業や催し等の情報提供を充実させる」(42.3%)、「文化施設が身近な場所にできる(増える)」(40.5%)となっています。



## 知っていること

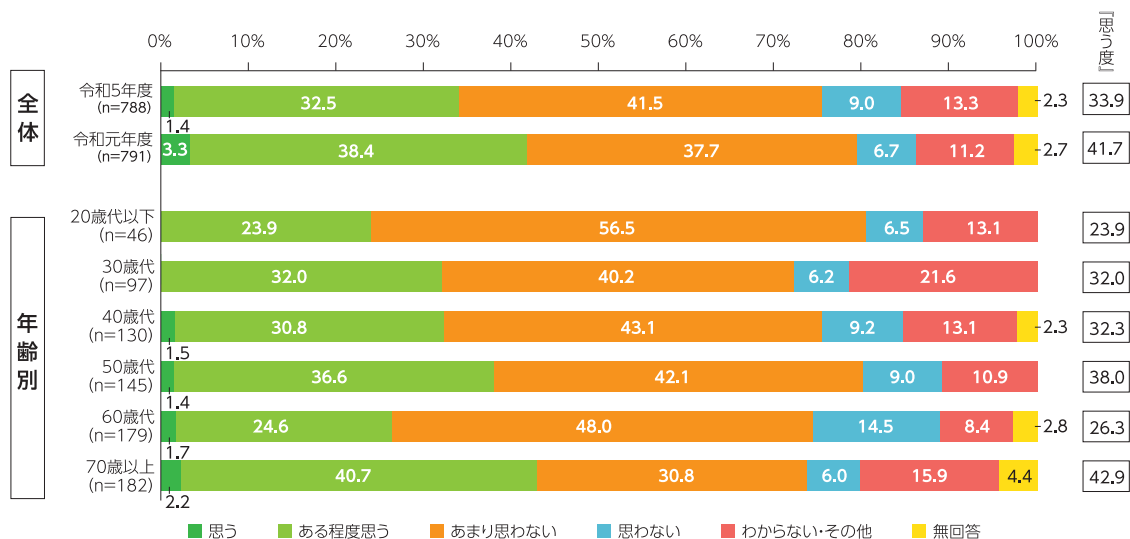
大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることに関して、聞いたことがあるものとしては、「西洋美術発祥の地」が49.5%と最も多く、次いで「西洋音楽発祥の地」(36.3%)、「育児院、コレジオ(高等教育機関)の設立」(23.9%)となっています。



## 文化・芸術が盛んなまちという意識

大分市が文化・芸術が盛んなまちと思っているかどうかをみると、『思う度』は33.9% (「思う」1.4%+「ある程度思う」32.5%)、『思わない度』は50.5% (「あまり思わない」41.5%+「思わない」9.0%)と、『思わない度』の方が16.6ポイント多くなっています。

令和元年度と比べると、『思う度』が40.7%から33.9%に減少しています。

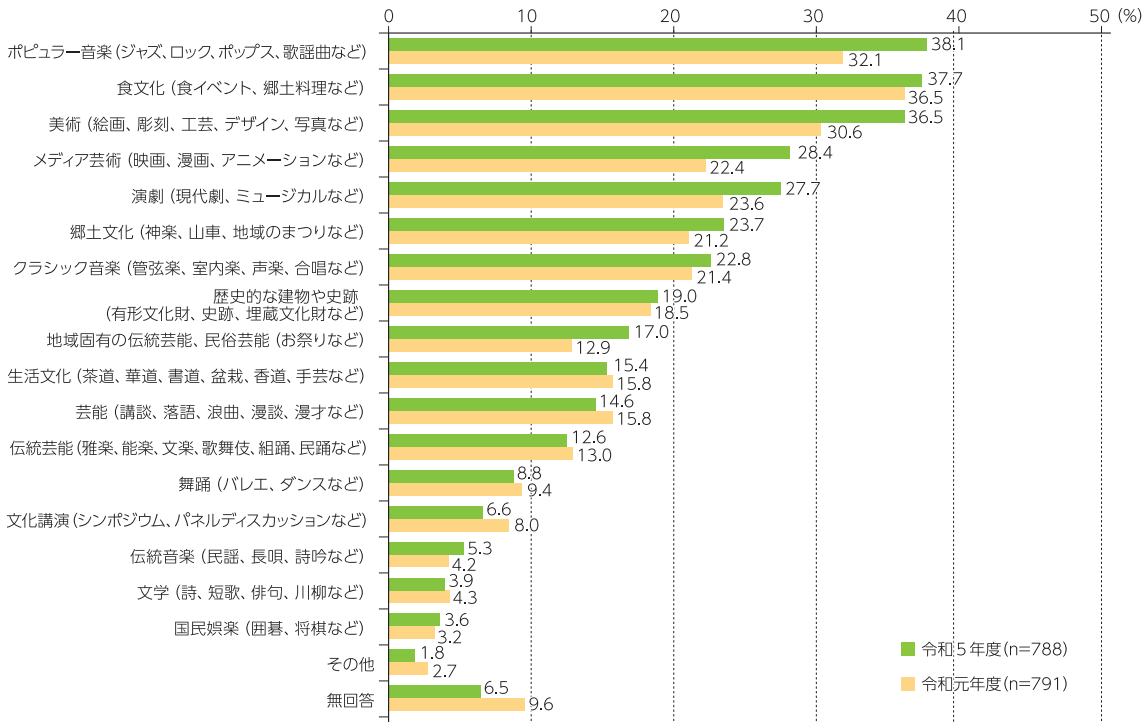


## ■ 文化・芸術施策で充実させてほしい分野

大分市の文化・芸術施策で充実させてほしい分野としては、「ポピュラー音楽（ジャズ、ロック、ポップス、歌謡曲など）」が38.1%と最も多く、次いで「食文化（食イベント、郷土料理など）」（37.7%）、「美術（絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真など）」（36.5%）となっています。

令和元年度と比べると、「ポピュラー音楽」、「美術」、「メディア芸術」などの増加が目立ちます。

年齢別にみると、年齢が低いほど「メディア芸術（映画、漫画、アニメーションなど）」が多く、20歳代以下では52.2%と半数を超えています。



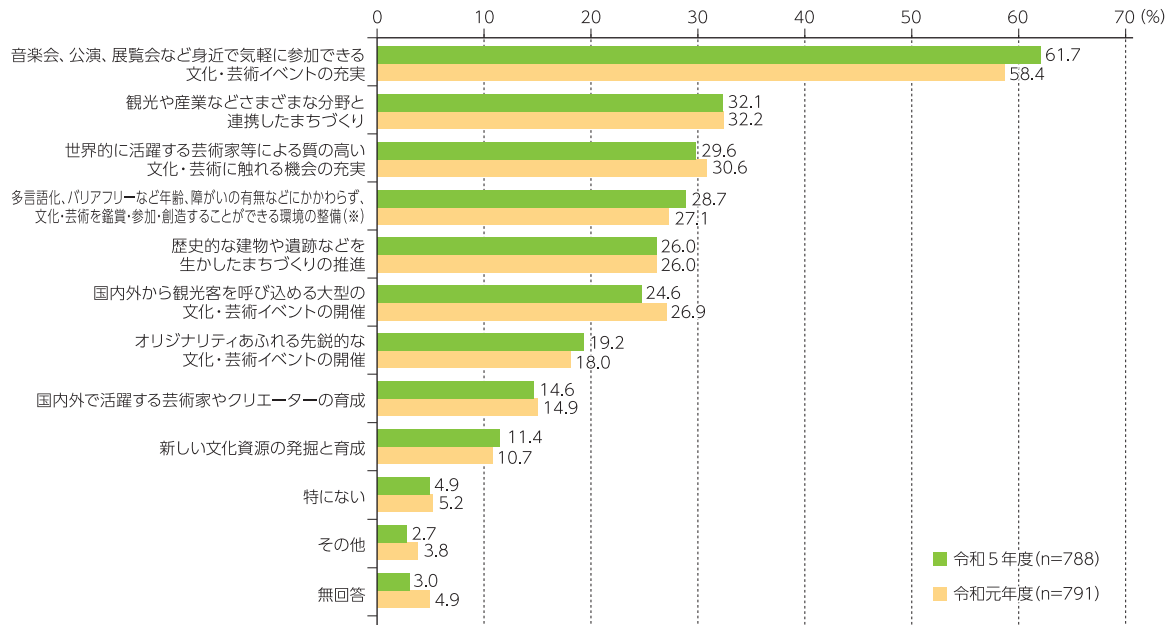
	サンプル数	文学 (詩、短歌、俳句、川柳など)	クラシック音楽 (管弦楽、室内楽、声楽、合唱など)	ポピュラー音楽 (ジャズ、ロック、ポップス、歌謡曲など)	ポピュラー音楽 (ジャズ、ロック、ポップス、歌謡曲など)	伝統音楽 (民謡、長唄、詩吟など)	美術 (絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真など)	演劇 (現代劇、ミュージカルなど)	舞踊 (バレエ、ダンスなど)	メディア芸術 (映画、漫画、アニメーションなど)	伝統芸能 (雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊、民謡など)	芸能 (講談、落語、浪曲、漫談、漫才など)	郷土文化 (神楽、山車、地域のまつりなど)
全体	788	3.9	22.8	38.1	5.3	36.5	27.7	8.8	28.4	12.6	14.6	23.7	
20歳代以下	46	6.5	19.6	41.3	2.2	30.4	32.6	10.9	52.2	17.4	15.2	15.2	
30歳代	97	3.1	23.7	40.2	6.2	38.1	30.9	9.3	43.3	9.3	14.4	18.6	
40歳代	130	2.3	25.4	45.4	4.6	39.2	24.6	11.5	38.5	16.2	20.0	33.8	
50歳代	145	2.1	20.7	49.0	3.4	37.2	33.8	9.7	33.8	6.9	11.0	15.9	
60歳代	179	3.4	25.7	37.4	1.7	41.9	32.4	9.5	24.0	11.2	12.8	26.3	
70歳以上	182	7.1	21.4	24.7	11.0	29.7	18.7	4.9	8.8	17.0	14.8	25.3	

	サンプル数	歴史的な建物や史跡 (有形文化財、史跡、埋蔵文化財など)	地域固有の伝統芸能 (お祭りなど)	生活文化 (茶道、華道、書道、盆栽、香道、手芸など)	食文化 (食イベント、郷土料理など)	国民娯楽 (囲碁、将棋など)	文化講演 (シンポジウム、パネルディスカッションなど)	その他	無回答
全体	788	19.0	17.0	15.4	37.7	3.6	6.6	1.8	9.6
20歳代以下	46	15.2	17.4	19.6	41.3	2.2	0.0	0.0	0.0
30歳代	97	16.5	19.6	15.5	47.4	3.1	1.0	1.0	4.9
40歳代	130	20.8	17.7	17.7	48.5	6.2	4.6	0.0	1.5
50歳代	145	22.8	11.7	12.4	38.6	0.7	5.5	2.1	7.6
60歳代	179	19.0	16.8	16.2	32.4	3.4	10.1	2.2	9.3
70歳以上	182	17.0	19.8	14.8	29.1	4.4	10.4	3.3	20.3

(注) 太字 全体より5ポイント以上大きいもの(「無回答」は除く)

## ■ 文化・芸術がもっと盛んになるために行うべきこと

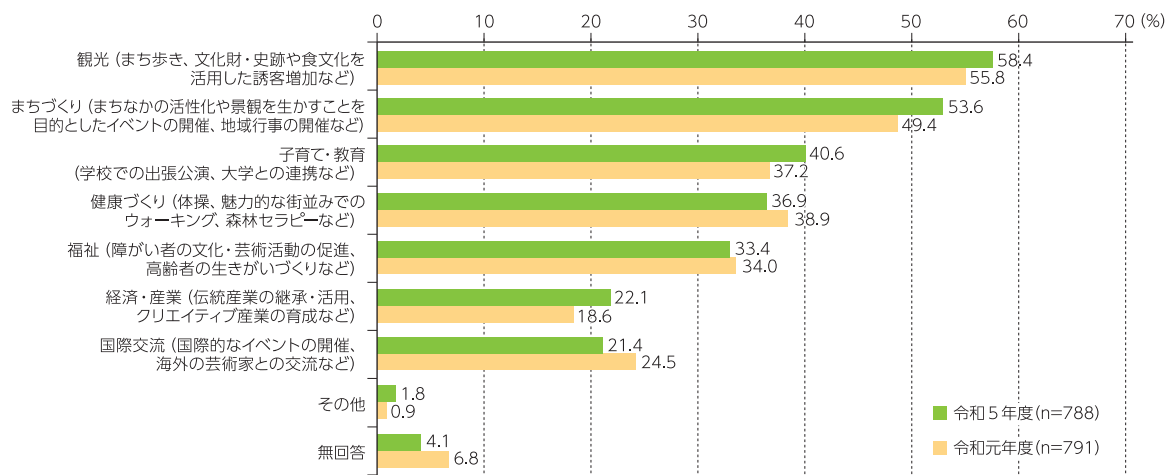
市民の文化・芸術がもっと盛んになるために行うべきこととしては、「音楽会、公演、展覧会など身近で気軽に参加できる文化・芸術イベントの充実」が61.7%と最も多く、次いで「観光や産業などさまざまな分野と連携したまちづくり」(32.1%)となっています。



(※) 多言語化、バリアフリーなど年齢、障がいの有無、経済的な状況または居住する地域にかかわらず等しく、文化・芸術を鑑賞・参加・創造することができる環境の整備

## ■ 文化・芸術を活かした方が良いと感じる分野

文化・芸術を活かした方が良いと感じる分野としては、「観光(まち歩き、文化財・史跡や食文化を活用した誘客増加など)」が58.4%と最も多く、次いで「まちづくり(まちなかの活性化や景観を生かすことを目的としたイベントの開催、地域行事の開催など)」(53.6%)、「子育て・教育(学校での出張公演、大学との連携など)」(40.6%)となっています。



## 団体アンケート

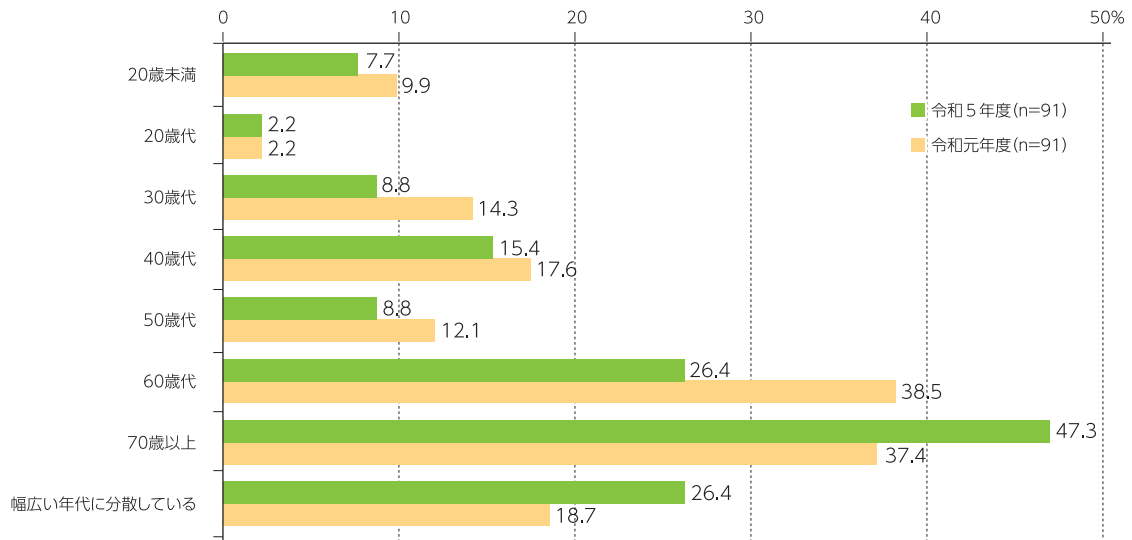
### 1 調査の概要

対象者	①NPO法人 大分県芸術文化振興会議会員の内、大分市を主な活動の拠点とする122団体 ②文化施設（J:COM ホルトホール大分、コンパルホール、平和市民公園能楽堂、アートプラザ）の利用団体 ③地区公民館（中央公民館を除く12館）の利用団体
調査方法	郵送調査法及び窓口配布
調査時期	令和5年11月20日～令和5年12月15日
配布・回収状況	配布数 245      回収数 91 回収率 37.1% ※回収率=回収数÷配布数

### 2 構成メンバーの年齢構成

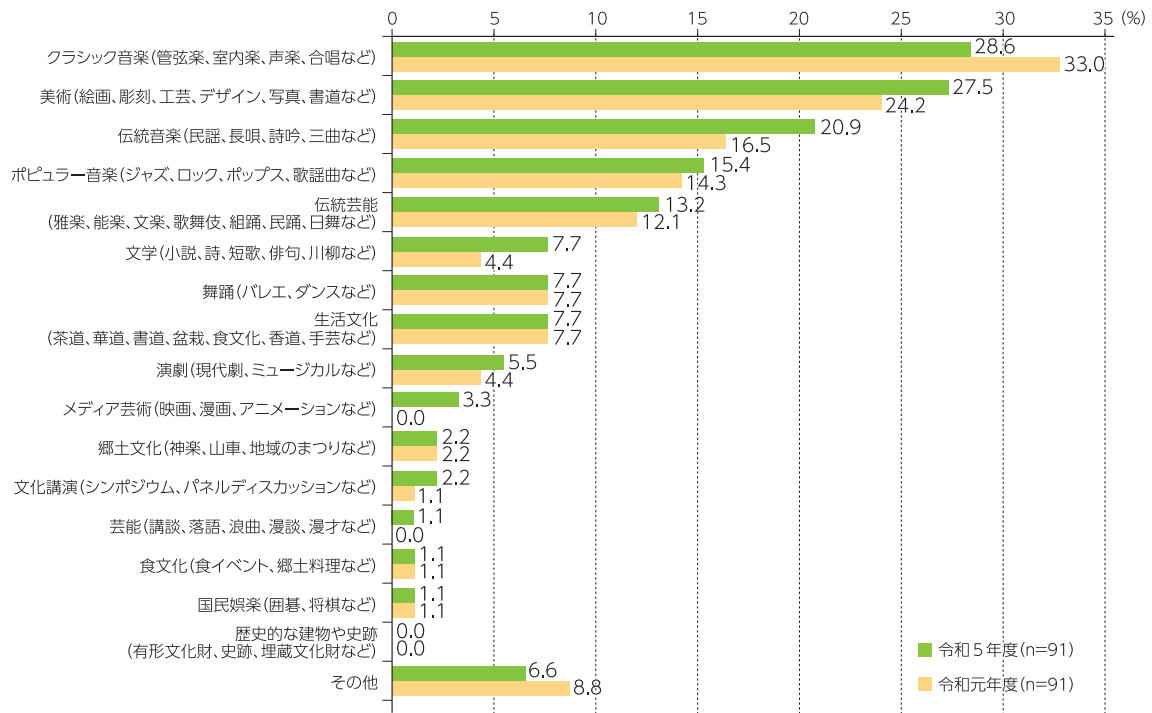
団体の構成メンバーの年齢構成をみると、今回調査では「70歳以上」が47.3%と最も多くなっています。

令和元年度と比べると、「60歳代」以下の割合が減少傾向にあり、「70歳以上」が増加しています。



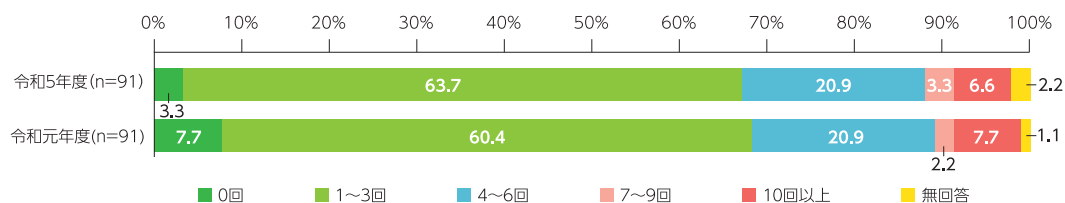
### 3 活動分野

活動分野としては、「クラシック音楽（管弦楽、室内楽、声楽、合唱など）」が28.6%と最も多く、次いで「美術（絵画、彫刻、工芸、デザイン、写真、書道など）」（27.5%）、「伝統音楽（民謡、長唄、詩吟、三曲など）」（20.9%）となっており、令和元年度調査から割合の増減はありますが、傾向としては大きな変化はみられません。



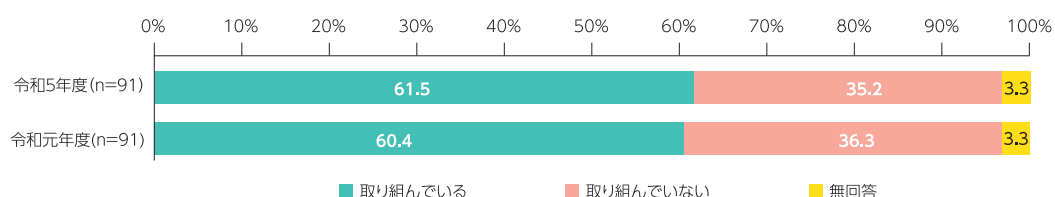
### 4 活動を発表する機会

活動の成果を市民等に発表する機会としては、令和元年度調査の時よりも「0回」が減り、「1～3回」が増加しています。



### 5 活動としてのアウトリーチ

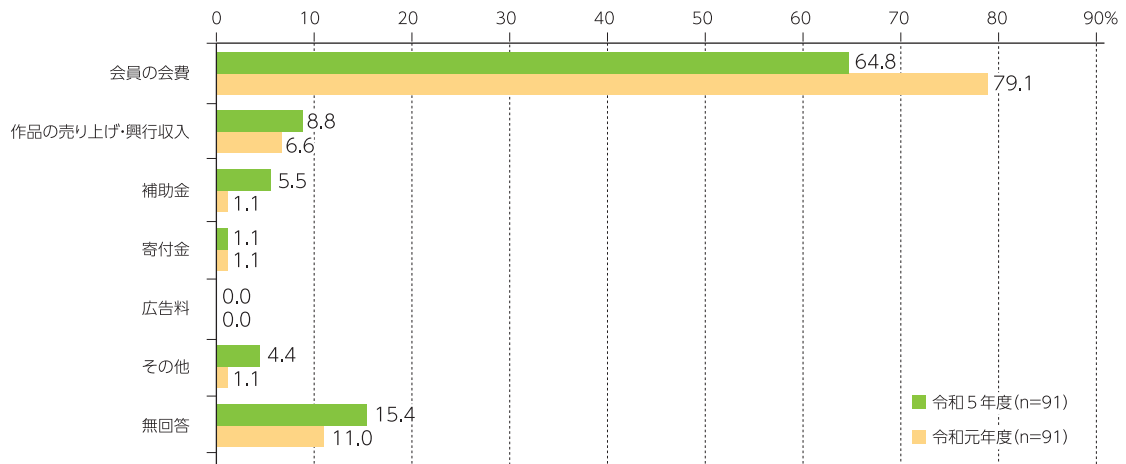
活動としてアウトリーチ（地域に向いてミニコンサートなどを行う普及活動）の取組状況としては、「取り組んでいる」が61.5%と、令和元年度調査と同程度となっています。



## 6 活動費の原資

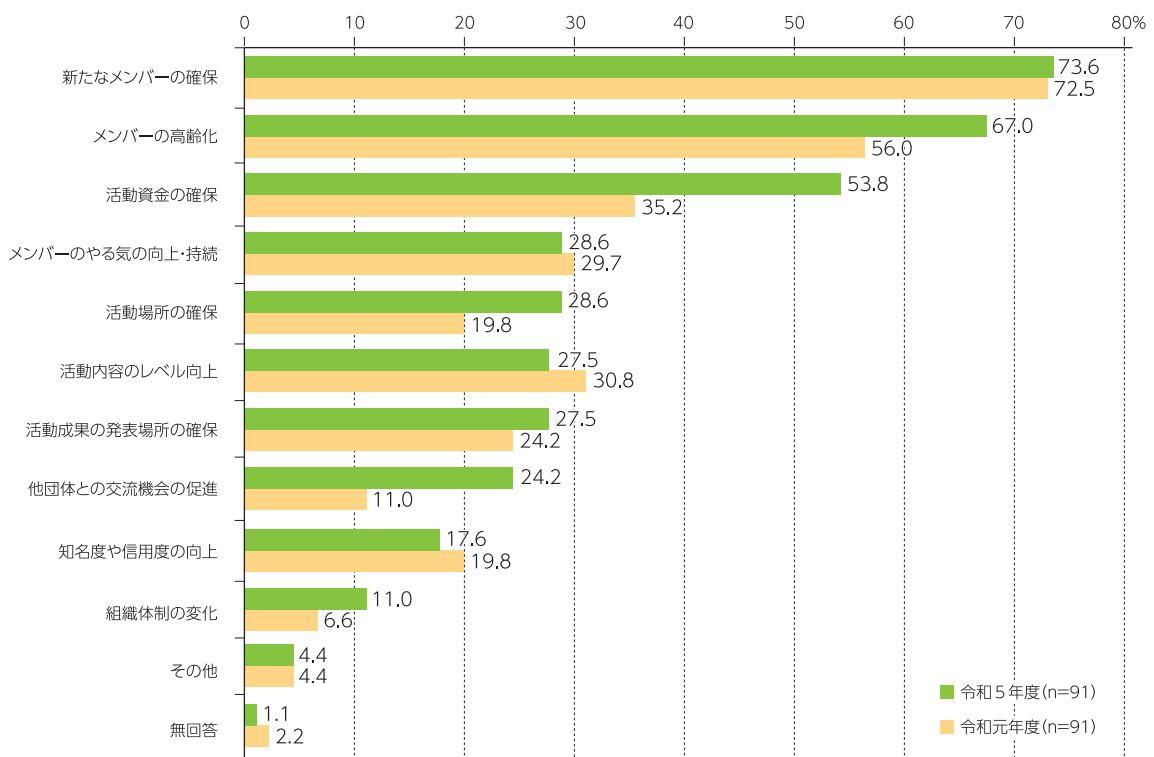
団体の活動の原資としては、令和元年度調査同様、「会員の会費」が64.8%と最も多くなっていますが、その割合は79.1%から14.3ポイント減少しています。

また、「補助金」の割合が令和元年度と比べて4.4ポイント増加しています。



## 7 活動を行うにあたっての課題

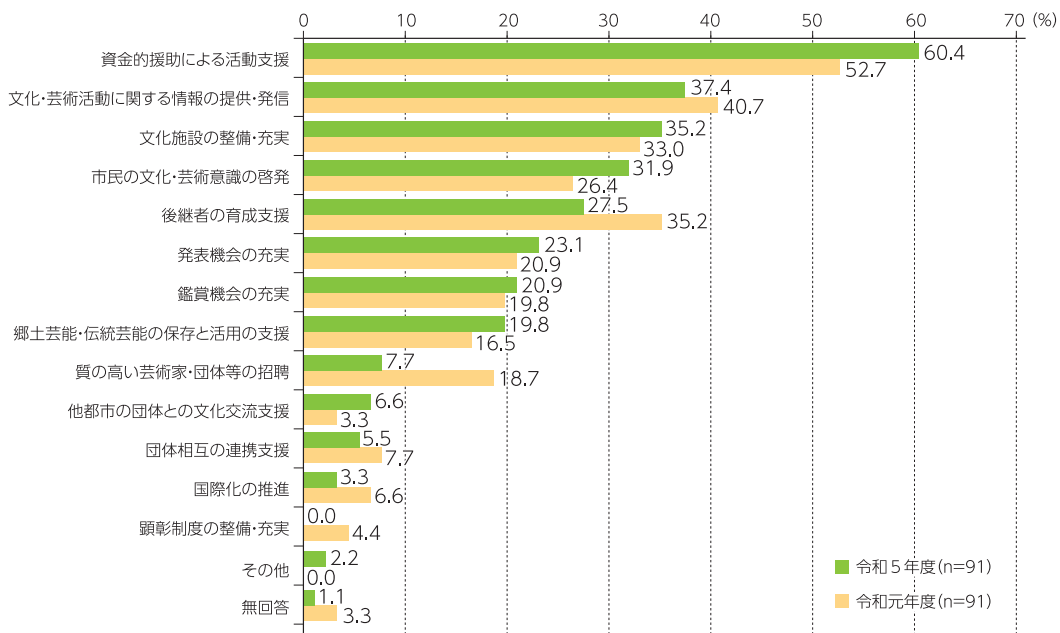
活動するにあたっての課題としては、令和元年度調査と同様、「新たなメンバーの確保」が最も多く、次いで「メンバーの高齢化」となっています。また、3番目にランクされている「活動資金の確保」が35.2%から53.8%に大きく増加しています。



## 8 団体活動の活発化のために行政や民間が行う必要があるもの

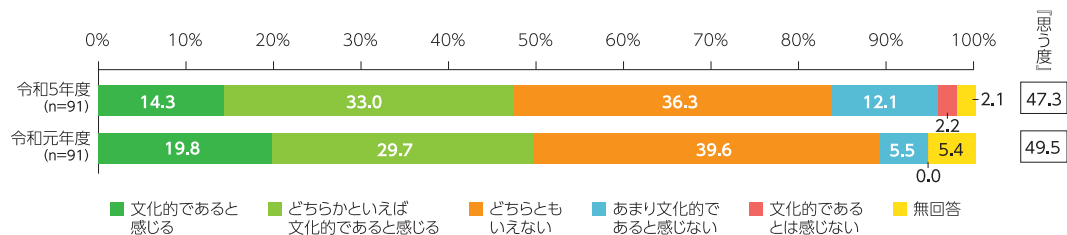
団体活動の活発化のために行政や民間が行う必要があるものとしては、「資金的援助による活動支援」が60.4%と最も多く、次いで「文化・芸術活動に関する情報の提供・発信」(37.4%)、「文化施設の整備・充実」(35.2%)、「市民の文化・芸術意識の啓発」(31.9%)となっています。

令和元年度と比べると、「後継者の育成支援」が3番目から5番目に低下しています。また、「質の高い芸術家・団体等の招聘」の減少が目立っています。



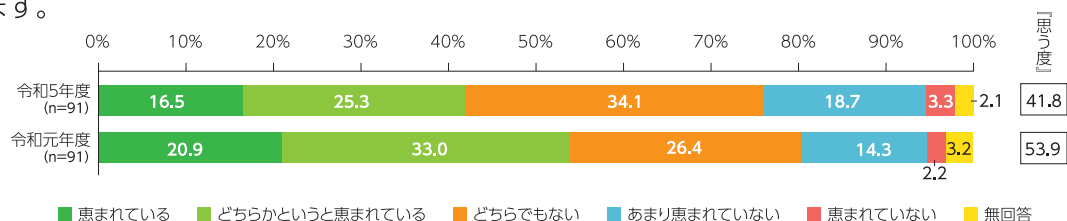
## 9 大分市を「文化的なまち」という意識

大分市が文化的なまちであるという意識は、令和元年度調査より減少しています。



## 10 大分市の文化・芸術の発表の機会

文化・芸術の発表の機会に恵まれているという意識は、令和元年度調査より減少しています。



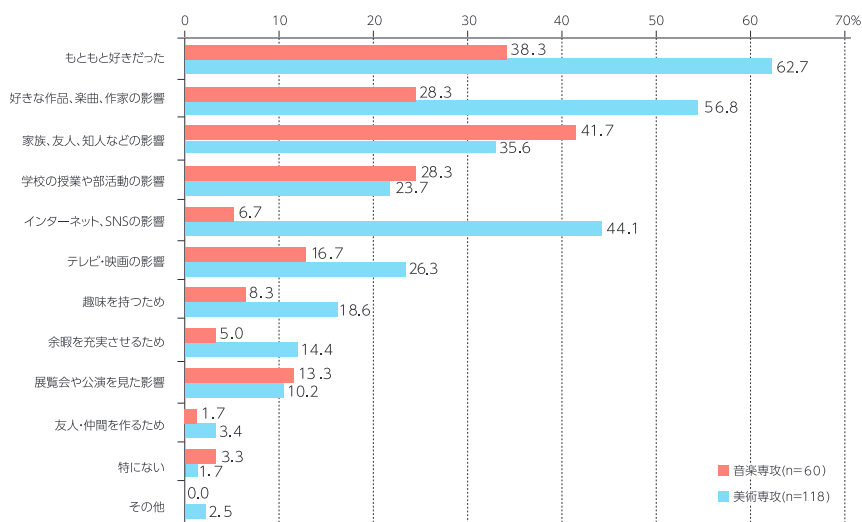
## 学生アンケート

### 1 調査の概要

	一般学生	専門学生	留学生
対象者	国立大学法人 大分大学(経済学部)	公立大学法人 大分県立芸術文化 短期大学 (美術科・音楽科 ・専攻科)	①国立大学法人 大分大学 ②学校法人文学学園 日本文理大学 ③公立大学法人 大分県立芸術文化 短期大学
調査方法	大学へ持ち込み配布	大学へ持ち込み配布	大学へ持ち込み配布 (インターネット申請併用)
調査時期	令和5年11月 ～令和6年1月	令和5年11月 ～令和6年1月	令和5年11月 ～令和6年1月
配布・ 回収状況	配布数 450 回収数 273 回収率 60.7%	配布数 410 回収数 178 回収率 43.4%	配布数 154 回収数 85 回収率 55.2%

### 2 文化・芸術に関心をもったきっかけ

専門学生が文化・芸術に関心を持ったきっかけとしては、音楽専攻では「家族、友人、知人などの影響」(41.7%)、美術専攻では「もともと好きだった」(62.7%)となっています。



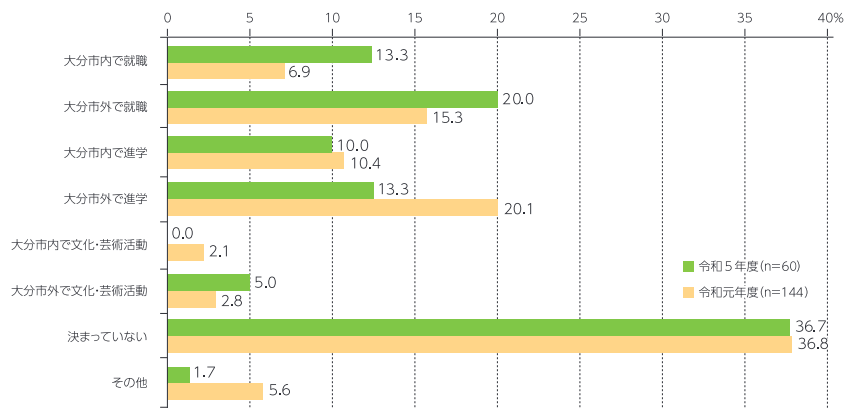


### 3 希望する進路

音楽専攻の今後の進路としては、「決まっていない」(36.7%)が最も多く、次いで「大分市外で就職」(20.0%)となっています。

令和元年度と比べると、「大分市外で就職」、「大分市内で就職」が増加し、「大分市外で進学」が大きく減少しています。

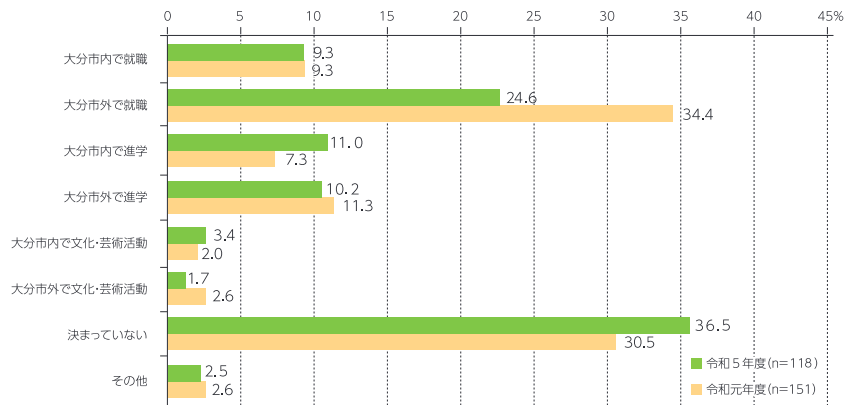
#### 《音楽専攻》



美術専攻の今後の進路としては、「決まっていない」(36.5%)が最も多く、次いで「大分市外で就職」(24.6%)となっています。

令和元年度と比べると、「大分市内で進学」が増加して、「大分市外で就職」が大きく減少しています。

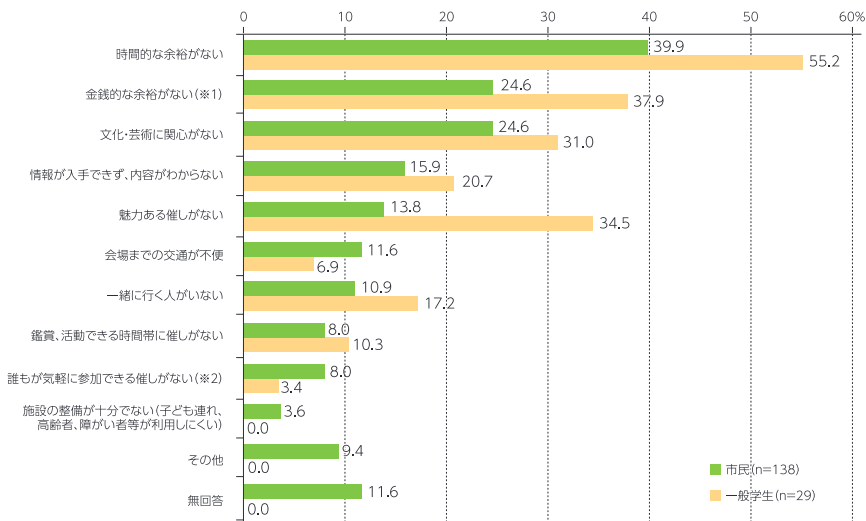
#### 《美術専攻》



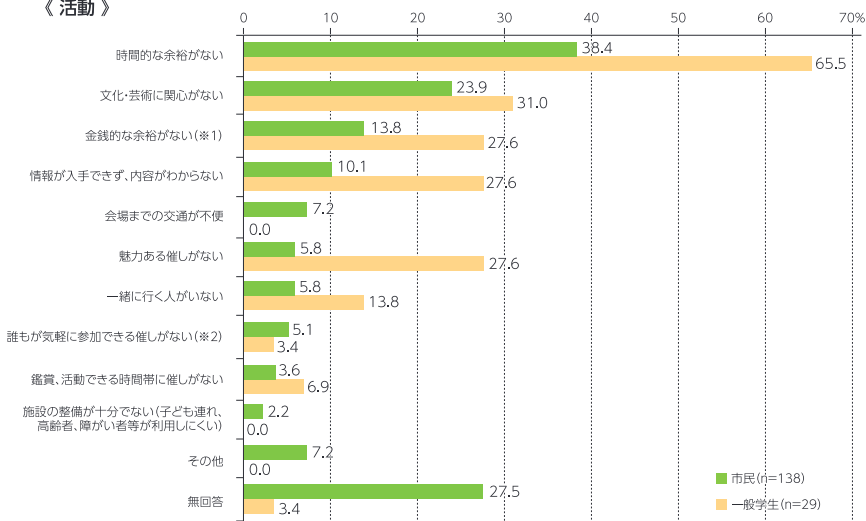
## 4 鑑賞も活動もしない理由

鑑賞も活動もしない理由としては、観賞、活動ともに、市民と同様、一般学生でも「時間的な余裕がない」が最も多くなっています。

### 《 鑑賞 》



### 《 活動 》

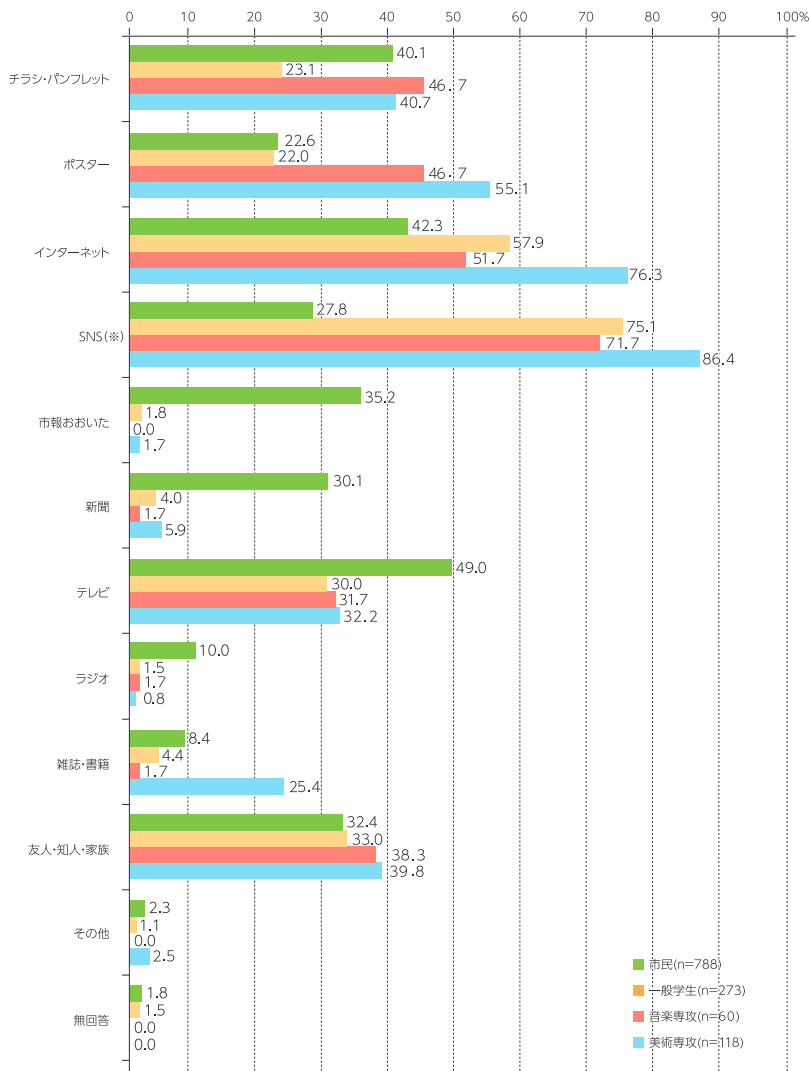


(※1) 令和元年度は「料金が低い」

(※2) 誰もが気軽に参加できる催しが無い(子どもが泣いたり騒いだりしても、安心して参加できるコンサートなど)

## 5 文化・芸術に関する情報について

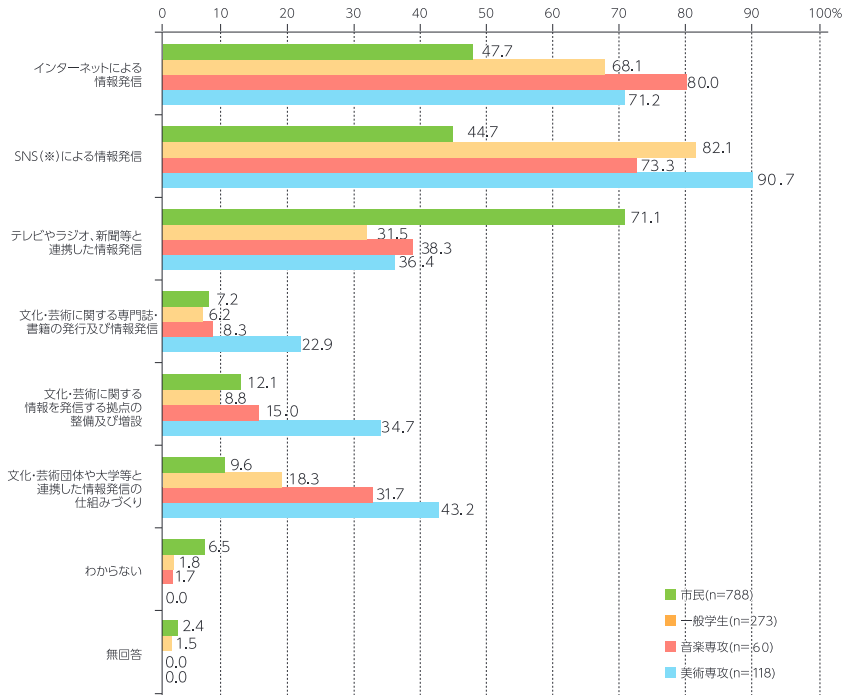
文化・芸術に関する情報の入手方法は、市民アンケートでは「テレビ」、「インターネット」、「チラシ・パンフレット」が4割台で並んでいますが、一般学生、専門学生では「SNS」が最も多くなっています。次いで一般学生、専門学生では「インターネット」となっています。



※SNS（フェイスブック、X（旧ツイッター）、LINE（ライン）、インスタグラムなど）

## 6 より多くの人へ文化・芸術に関する情報を発信するために必要な取組

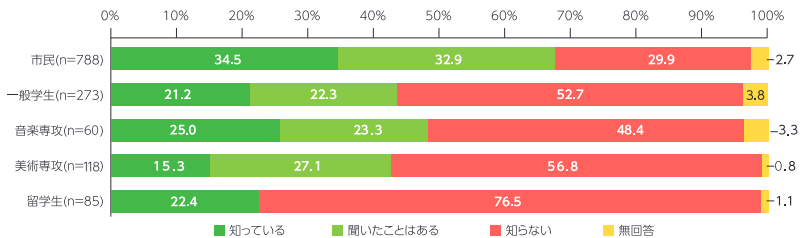
より多くの人へ文化・芸術に関する情報を発信するために必要な取組としては、市民アンケートでは「テレビやラジオ、新聞等と連携した情報発信」が最も多くなっていますが、一般学生、専門学生では「SNSによる情報発信」や「インターネットによる情報発信」が多くなっています。



※SNS (フェイスブック、X (旧ツイッター)、LINE (ライン)、インスタグラムなど)

## 7 大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることの認知度

大分市が日本における南蛮文化発祥の地であることについては、市民では「知っている」が34.5%ですが、学生や留学生では2割程度にとどまっています。

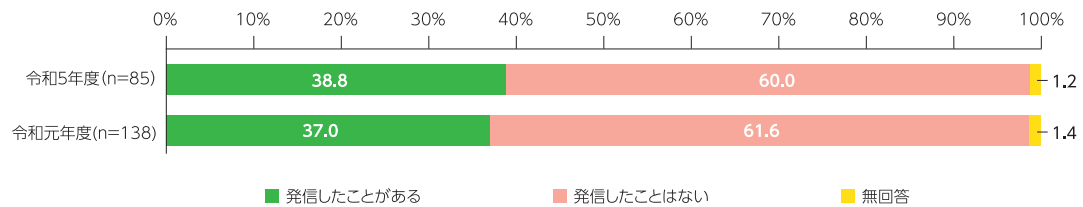


※留学生では「聞いたことはある」という選択肢は提示していない。

## 8 大分市の祭りや観光名所、景観、建築物などのSNS発信（留学生）

大分市の祭りや観光名所、景観、建築物などをSNS（※）で発信した経験についてみると、「発信したことがある」は38.8%となっています。

（※） SNS 〈フェイスブック、X（旧ツイッター）、LINE（ライン）、インスタグラムなど〉



発行者 **大分市企画部文化振興課**

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

TEL : 097-537-5663 FAX : 097-536-4044